

先進地（現地）調査報告書

令和 元年 3 月 10 日

玉名市議会

議 長 中尾 嘉男 様

氏 名 吉 田 憲 司



下記のとおり、先進地（現地）調査を行いましたので報告します。

調 査 議 員	多田隈 啓二 北本 将幸 吉田 真樹子 吉田 憲司
日 時	令和 元年 6 月 1 日（土）～令和 元年 6 月 2 日（日） 午前・（午後） 1 時 0 0 分 ～ 午前・（午後） 4 時 0 0 分
調 査 先	山形県東根市
調 査 事 項	マラソン大会・公共施設
調査先面会者	東根市 市長 土田 正剛 東根市副市長 XXXXXXXXXX 東根市議会事務局 局長補佐 XXXXXXXXXX 東根市議会事務局 議事主査 XXXXXXXXXX
概要及び所見	別紙のとおり。

別 紙

急速な高齢化社会の進展により、社会保障費（医療費、年金、介護費等）の抑制への取り組みが急務となってきた。

特に、介護保険の「介護予防、日常生活支援総合事業」が始まり、介護保険のサービス内容や介護保険料に、各市町村の施策により格差が生じてきている。

この事業の先進地として、大東市がテレビで紹介されており、研修先として選定した。

まず、大東市は、住民にコスト意識を投げかけ、「健康で介護サービスを使わなければ、介護保険料は安くなるかもしれない。」と呼びかけた。そして、市が独自の「元気でまっせ体操」を考案し、DVD等で、住民が主体となり、公民館等に集まり、地区や各種グループ等で実践していった。このことにより、自分自身の健康をより意識するようになり、さらに、参加者の交流も盛んになっていった。

また、介護保険のサービスも、介護の専門職ではなく、生活支援サービス事業など、地域住民ができる部分については、有償ボランティアというかたちで、住民参加型のサービスを展開。掃除や除草作業、買い物の付き添いなどを、30分250円の対価、または、活動した時間を「時間貯金」として、貯めておいて、自分が介護は必要となった時、その時間を使えるという仕組みである。

これらの取り組みにより、大東市の介護給付費の削減は、平成28年度で、1億4千万円。平成29年度では2億8千万円の削減が見込まれ、「財源」と「人材」が生み出された。

玉名市としても、地域に見合った、施策やサービスを検討し、実行することによって、地域住民の健康意識の向上と社会保障費抑制に、住民と行政が一体となって務めていかなければならない。

平成30年第2回定例会（3月議会）で、この件について、一般質問したところ、平成30年度から、玉名市としても、有償ボランティアを活用しての、サービスを一部始めるとの答弁であった。今後も、情報を共有しつつ、共通認識をもって推進していきたい。「以下余白」

先進地（現地）調査報告書

令和 2 年 3 月 10 日

玉名市議会
議 長 中尾 嘉男 様

氏 名 吉 田 憲 司 

下記のとおり、先進地（現地）調査を行いましたので報告します。

調 査 議 員	多田隈 啓二 北本 将幸 吉田 真樹子 吉田 憲司
日 時	令和2年 2月 6日（木）～令和2年 2月 6日（木） 午前・午後 1時00分 ～ 午前・午後 3時00分
調 査 先	香川県 善通寺市
調 査 事 項	子育て支援について
調査先面会者	善通寺市 市議会議長 善通寺市 保健福祉部子ども課 課長 
概要及び所見	別紙添付

別 紙

厚生労働省の発表によると、2019年の出生数は86万4千人となり、初めて90万人を割り、超少子高齢化に伴う、人口減少社会は、国の推計より2年も早く進行しており、深刻さを増している。

このような中、移住、定住、妊娠、出産、子育て等に対する、独自の施策や支援を行っている自治体が多い香川県へ出向した。香川県は「うどん県」として有名であるが、現在は「子育て県」として知られている。

その中の、善通寺市は、人口3万2千人、議員数は16人の市である。

1番の特徴としては、児童福祉と母子保健が一体となった、子育て支援の総合的な拠点として、市役所本庁舎の隣に「子ども、家庭支援センター」を設置し、子どもの成長に応じ、妊娠から思春期まで、また、親の立場からすると、離婚相談、就労支援、ひとり親家庭のサポートまで、すべてがワンストップで対応でき、保健師、児童相談員、女性相談員等の専門職が対応している。

また、子育て世帯の交流、情報交換や相談、さらには、休日保育、病児保育、延長保育などができる施設を網羅した「善通寺子育て応援マップ」を作成し、情報発信を行っている。

特に、善通寺市の独自の取り組みとしては、ファミリーサポートセンターを開設し、一時的に、育児や家事援助を必要とする家庭に対し、ホームヘルパーを派遣する、子育てホームヘルプサービスを実施している。

それから、公立、私立問わず保育所で使用済み紙おむつを回収し、市が全額を負担して処理を行っている。この年間予算は140万円とのこと。

また、通常の3歳児検診に加え、5歳児検診に力を入れている。5歳くらいの方が、発達の度合い、特性をより把握できる。そして、検診後のフォローに重点をおき、大学や教育委員会等と連携して支援に取り組んでいる。

この善通寺市は、昨年、東京都目黒区で当時5歳で亡くなった、船戸結愛ちゃん虐待死事件において、この家族が目黒区へ転居する前は、善通寺市に居住していたことから、市や児童相談所等の行政間の情報伝達、共有が一部うまくできていなかったことを踏まえ、近隣の4市5町と「育児支援ネットワーク会議」を市内の病院（四国子どもとおとなの医療センター内）に設置、さらには、香川県警察本部とも協定を締結し、多方面からの情報の共有を進めている。

このように、切れ目のない支援体制と、関係機関とのスムーズな連携体制がとれている。

最後に、これらの施策に当たっては、市長自らが、現場に足を運び、市民の「生」の声を聞いているとの、言葉が印象的であった。

これらの施策が、玉名市にとっても、有効であるのか、検討する余地はあると思う。

「以下余白」

先進地（現地）調査報告書

令和 2 年 3 月 10 日

玉名市議会

議 長 中尾 嘉男 様

氏 名 吉 田 憲 司



下記のとおり、先進地（現地）調査を行いましたので報告します。

調 査 議 員	多田隈 啓二 北本 将幸 吉田 真樹子 吉田 憲司
日 時	令和 2 年 2 月 7 日（金）～令和 2 年 2 月 7 日（金） 午前・午後 9 時 3 0 分 ～ 午前・午後 1 1 時 3 0 分
調 査 先	香川県 宇多津町
調 査 事 項	子育て支援について
調査先面会者	宇多津町長 谷川俊博 町議会議長 宮本たかし 議会事務局長 XXXXXXXXXX （その他、保健福祉課長・健康増進課長・まちづくり課長）
概要及び所見	別紙添付

別 紙

厚生労働省の発表によると、2019年の出生数は86万4千人となり、初めて90万人を割り、超少子高齢化に伴う、人口減少社会は、国の推計より2年も早く進行しており、深刻さを増している。

このような中、移住、定住、妊娠、出産、子育て等に対する、独自の施策や支援を行っている自治体が多い香川県へ出向した。香川県は「うどん県」として有名であるが、現在は「子育て県」として知られている。

その中の、宇多津町は、人口1万8千人、議員数は10人の町である。

宇多津町は、47都道府県の中で1番小さな香川県。その中でも、1番小さな町ではあるが、「小さいながらも☆キラリ☆と光る町」をキャッチフレーズに、右肩上がりで人口が増加している町である。

高度経済成長期には工業地帯が作られ、昭和63年に本土（岡山県）と瀬戸大橋が完成し、30分くらいで行き来ができるようになり、さらに、平成に入り、旧塩田地帯を宅地化したことにより、大型商業施設が立地し人口増の要因となっている。

将来的にも、人口増加を拡大することで、将来に向けた持続性のある地域力を築くため、様々な施策がなされている。

市の直営の「はぐはぐランド」は、親子の交流の場、子ども達の遊び場があり、児童虐待、ひとり親家庭等、悩みや相談を受けるなどの環境が整っており、すべて無料である。

また、市長肝いりで開設された子ども食堂（社協委託）が、月に1回開設され、子どもは、1回100円で利用できる。

それから、交通弱者対策として始まった、タクシー券の助成について、母子健康手帳の交付を受けた妊婦さんも申請すれば、12000円分の助成をうけることができる。

町内の公立の小学校、中学校の新入学生の制服代をひとり当たり、15000円を補助している。（町内から町外への入学は該当しない。）

さらには、交通の利便性や海も山も商業施設もあるという、とても良好な立地条件であるため、移住定住にも力を入れられている。

空き家リフォーム補助は、費用の2分の1（上限100万円）、家財道具の処分は、費用の2分の1（上限10万円）。

新婚世帯家賃補助は、最大24万円（月／上限額1万円 × 24ヶ月）。県外からの移住新婚世帯は、最大54万円（月／上限額2万円 × 24ヶ月 + 初期費用6万円）。

最も、印象的な施策として「ふるさとファンミーティング」の開催である。これは、ふるさと納税をしてくれた方を、宇多津町のファンとして招待し、1泊2日で、稲刈り、瀬戸内海クルージング、夜景観賞、お遍路体験、朝うどん、ふるさとランチ等が実施され、参加者との意見交換を行い、住民サービスや観光交流の課題や改善点などを洗い出す目的の事業である。

これらの施策も、善通寺市と同じく、現場主義が徹底され、現場の「声」を反映したものであろう。元々がコンパクトシティの宇多津町だが、玉名市としても検討してみたい。

「以下余白」

様式 3

報告（広聴・住民相談）会報告書

令和 2 年 3 月 10 日

玉名市議会

議 長 中尾 嘉男 様

氏 名 吉 田 憲 司 

下記のとおり、開催しましたので報告します。

参 加 議 員	吉 田 憲 司		
日 時	令和元年 1 1 月 4 日（月）～令和元年 1 1 月 4 日（月） 午前 午後 7 時 0 0 分 ～ 午前 午後 8 時 3 0 分		
場 所	玉名市民会館 （第 1 会議室）	参加者数	1 0 0 名
会 議 名	吉田けんじ 市政報告会		
内 容	市議会議員として初当選から、折り返しの 2 年が経過しました。まだまだ勉強不足ですが、市民の皆様、先輩議員、そして市職員のサポートをいただき、どうにか議会活動を行うことができます。そして、この 2 年目の 1 年間は「大河ドラマいだてん」という、千載一遇のチャンスを議会としても一議員としても、執行部と力を合わせて頑張ってきたつもりです。 それらのことを、市民の皆さまに直接お伝えするために報告会を開催しました。 議会改革の一環として、イメージチェンジした「市議会だより」のことをお話しすると、「読みやすい」「知らなかった」など、反響がありました。また、一般質問の内容をお話ししたことによって、1 2 月議会に初めて傍聴に来られた方が数名おられました。 やはり、実際に傍聴に来ていただいて、市政に対する関心をひとりでも多くの市民に持っていただきたいと思います。 当然のことながら、市民との対話の中から、玉名市の未来が作られて行くと思いますので、毎年、続けていきたいと思っています。 「以下余白」		